

どうして？あたりまえのことじゃないの？ ～履歴書の項目から考えましょう～

●ねらい

人権はすべての人が生まれながらに持っている権利ですが、あまり意識して生活することは少ないのではないのでしょうか。

日常的な人間関係に深くかかわる履歴書の項目から、私たちの人権について考え、それがどのような人権侵害に結びつくのかを知るとともに、私たち一人ひとりが幸せに生きることができる社会の実現のために、自分がどう行動していくべきかを考えてみましょう。

●プログラムの流れ（90分）

流れ	分	学 習 活 動
導入	10	朗読劇で今日の学習内容を確認する。 話し合いのルールについて説明する。（尊重・参加・守秘）
展開1	20	履歴書について説明する。 ① 履歴書の記載項目として必要な項目と不必要な項目、どちらともいえない項目の3つにカードを分け、なぜそうなのか理由をグループで話し合いながら貼る。 他グループの表や現行の履歴書例と見比べ、感じたこと・考えたことを話し合う。
展開2	10	履歴書の項目の移り変わりについて説明をする。（例 本籍地が同和問題や外国人差別に結びつくや、本来自由であるべき事柄が、雇う側の個人的な価値観で判断されてきたことなど）
展開3	25	② 「必要な項目」＝人間関係を築くために必要で、一見あたりまえと挙げられる項目について考える。 「必要な項目」も聞き手の意識や聞くタイミングにより、人権侵害に結びつくことを伝え、あてはまる人やタイミングをグループで話し合う。（例 写真が人種差別や民族差別につながるアメリカのことなど）
展開4	20	③ 自分自身をふりかえる。 日常生活の中で何気なく人に聞いたり、聞かれて答えたりしていることが、相手にとっては苦痛であったり不安感を引き起こ

		すことはないだろうか、人権侵害はないだろうか、グループで話し合う。 よりよい人間関係を築くために、自分はどのように行動すべきか考える。
まとめ	5	④ 価値観の違いを相手に押し付けないことや、自分の考え方がすべての人にあてはまらないということ。 ⑤ 「なにも聞けない」という意見が出たら、情報を人権侵害につなげないという人権感覚が大切であると伝える。

* 参加について

参加型体験学習は参加者の積極的な話し合いによって、実りのあるものになっていくことを伝える。しかし、人によっては話をしたくない、いま自分は話せないなどの思いもあるので、「パス」をしてもいいこと、回りの参加者も発言の強要をしないことを伝える。ただ、全員がパスをすると学習が成り立たなくなるので、度の超えたパスはしないでほしいと伝える。

* 尊重について

参加者は年齢や性別、また環境や生き立ちが違うため、意見が食い違うことが出てくると思う。しかし、頭から相手の発言をさえぎるのではなく、相手の思いを尊重しながら、自分の考えを伝えていくということが大切であることを共有する

* 守秘について

人権学習の場で出た意見はこの場限りとしていただき、後々噂話などにならないようお願いする。ただ、地域で取り組まなければいけない事項が出た場合は、必ず発言者とともに対処していただくことをお願いする。

* 発表について

過去の小地域懇談会において、発表させられるという思いが多くの参加者の負担になっていることを踏まえ、このプログラムにおいての発表は行わない。推進者（ファシリテーター）が各グループから出ている意見を拾い上げ、参加者の方々に伝えていくようにする。

●模造紙

必要な項目	どちらともいえない項目	不必要な項目

① なぜそう分けたのか理由を考えながら貼ってもらう。

●カード

氏名	家族の職業	家族の収入	配偶者の有無
生年月日	性別	健康状態	電話番号
写真	本人の現住所	自宅までの地図	本籍地
学歴・職歴	資格	学業の成績	志望動機
思想	支持する政党	尊敬する人物	愛読書
趣味・特技	長所・短所		

②「必要な項目」=一見“当たり前”として挙げられる項目について考える。
本当にそうなのか？苦痛や不安感を覚えることはないか？

③自分自身をふりかえる。
日常生活の中で、どのように行動していくべきか？